

2022 年 9 月 28 日

武蔵野美術大学 学長 殿

## 海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

## 記

氏名	荻野楓子	所属	基礎デザイン学科研究室
		職位	助教
研究課題	1. ホワイトキューブ内外の空間について 2. 作為と無作為の境界について-畑などの空間から-		
研究先機関	Dia Beacon, Dia Chelsea, New Museum of Contemporary Art, Museum of Modern Art, Guggenheim Museum, Dominus Estate, San Francisco Museum of Modern Art 他		
主な滞在地 (国・都市名)	アメリカ・ニューヨーク, サンフランシスコ		
渡航日程	2022 年 8 月 23 日 ~ 2022 年 8 月 31 日 (10 日間)		
研究目的・理由	・都市建築、美術空間、郊外風景の見学・観察・撮影 ・作品のための郊外風景撮影 ・景観の価値形成について研究		
研究成果発表予定 (展覧会、著書、 論文発表等)	助教・助手展 2022		

研究内容

1. ホワイトキューブ内外の空間について各地の美術館、ギャラリーひいては展示空間を訪ね比較することで、「場所が美術作品を美術作品たらしめている」ような仮説を立てたい。反対にホワイトキューブ外のアート（制作途中の段階や輸送中、搬入搬出中、緩衝材で保護されビニールなどで覆われている状態など）に注視する研究も進めたい。基礎調査のための鑑賞、撮影が主な目的と内容。
2. 作為と無作為の境界について、畑や工場など観光やそのような商業的目的のない場所が建築により価値形成される例もある。Dominus Estateをはじめ畑との共存が図られたナパは良い例である。1と同様に基礎調査のための鑑賞、撮影が主な目的と内容。
3. 写真作品の作品撮り。 <https://ofugonionc.tumblr.com/>

以下、詳細な道程記録。

移動日を除く1日目はNew Museum of Contemporary Art、SANAA設計の近代美術館建築を見学。ART AND RACE MATTERS: THE CAREER OF ROBERT COLESCOTTの展示他、近現代のアーティストによる作品を鑑賞。続いてニューヨーク市内の建築（Vessel, ブルックリン橋, 国際連合本部事務局ビル等）を探訪、撮影。2日目、セントラルパーク周辺の美術館に足を運ぶ。Guggenheim Museumにて建築鑑賞及びカンディンスキーの展示を鑑賞。Metropolitan Museum of Artは見学に留める。3日目、ハドソン川を北上してビーコンへ。Dia Beaconを一日かけてまわる。Dia Beaconについては後述。4日目はまず行き残したMoMAへ、莫大な数と規模の内外の作品を鑑賞。ホワイトキューブという名称の原点でもある。チェルシー地区へ移動し、Dia Chelseaを筆頭に主に現代アートのギャラリーを探索、鑑賞。併せてとりとめのない街の建築を意識的に見る。ニューアーク・リバティー国際空港からサンフランシスコ国際空港への移動日を挟む（体調不良）。カリフォルニアに降り立ちサンフランシスコ1日目、Herzog & de Meuron設計のワイナリー建築Dominus Estate見学。畑を含め日本では見られない規模感を体感し圧倒される。畑の概念が違う。サンフランシスコ2日目はSan Francisco Museum of Modern Artにて展覧会Julian Charrière: Erraticや収蔵作品を鑑賞。その後、ゴールデンゲートパーク内の、Dominus Estateと同じくHerzog & de Meuron設計de Young Museum、Renzo Piano設計のCalifornia Academy of Scienceの有機的な建築を鑑賞、撮影。翌日、飛行機で成田空港へ帰国。

特に、Dia Art Foundationが手がける美術空間は素晴らしい純度の空間で、規模の大きさゆえに建築なのか美術作品なのか境界を見つけるのも難しい。Dia Beaconを一日観察し、展示のキャプションや建物のサインなどの小さな視点から、見物する人、監視する学芸員、床や天井、包括する建築までじっくりと思案を深めることができた。日本で経験することのできないこのような得難い経験を基礎研究と位置づけ、ホワイトキューブ内外の空間について今後の研究に活用したい。

大学授業における  
研究成果の還元

授業を受け持っていないので以下、大学における研究成果の還元について。

1. 助教・助手展 2022

研究成果発表の場として。主に項目 2. 作為と無作為の境界についての昨年から今年の成果発表、現段階では写真作品も含め展示を考えている。

2. 暗室実習

授業ではないが、コロナ渦で、通常1年次必修の暗室実習を体験できなかった学生向けに、9/23-10/3 で暗室での現像・プリントのレクチャーを行う。ニューヨーク・サンフランシスコで行った撮影のほとんどはフィルムカメラである。項目 3. 写真作品 を作る工程を交えてレクチャーを予定している。

研究日程（全滞在期間）

出発日 (現地時間)	出発地 (国・都市名)	到着日 (現地時間)	到着地 (国・都市名)	研究内容等	滞在 日数
8/23	東京	8/23	ニューヨーク	移動日	
		8/24		New Museum of Contemporary Art, Vessel 他建築探訪	
		8/25		Guggenheim Museum, The Metropolitan Museum of Art 観覧・見学	
		8/26	ビーコン	Dia Beacon 観覧・見学	
		8/27		MoMa, Dia Chelsea 観覧・見学、チェルシー地区探索	6 日間
8/28	ニューヨーク	8/28	サンフランシスコ	移動日・撮影	
		8/29		Dominus Estate 見学	
		8/30		San Francisco Museum of Modern Art, California Academy of Science, de Young Museum 観覧・見学	
		8/31		移動日	4 日間
8/31	サンフランシスコ	9/1	東京		
備考					

以上

- ※ 欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。
- ※ その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。